

# 実践記録 シリーズ

136

## 「サバイバルキャンプ」～生きる力、思いやる心～

津南町教育委員会生涯学習班社会教育主事 板場 麻実



皆さん!「公民館月報5月号」の表紙、ご覧いただけましたか?昨年の「サバイバルキャンプ」の目玉、ドラム缶風呂を楽しむ子どもたちの笑顔!一顔してたてしょ?

### ―はじまり―

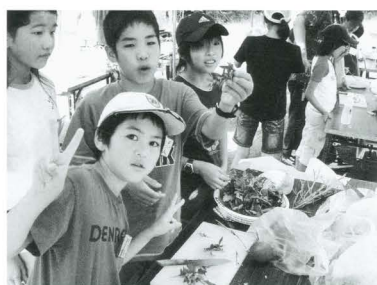
「サバイバルキャンプ」は、平成10年から、津南町青少年育成町民会議の育成部会の事業で始められました。当初から、「子どもたちの生きる力を確認し高めあおう」を合言葉に育成部会の役員をはじめ、高校生ボランティア、体育指導委員、公民館職員など、全員の知恵と力を終結させて行われ、今年で11回目を迎えます。



### ―メニューと成果―

まず、事前研修ということで、キャンプ前に竹を使って、箸と竹串を一人一人が作り、班ごとに、初めて会う友達とテントを立てる練習をします。他の学校の学年の違う子との初めての作業。ここで各班の特徴がなんとなく出てきます。(おもしろいものですよ。)

さて、2泊3日のキャンプ。会場は無印良品津南キャンプ場です。初日は班ごとに泊まりのテントと、全員で食事をする場所のターフ張り。午後からは、活動班単位で焚き木拾いと、食べられる野草摘み。この野草を天ぷらにして夕食のおかずになります。初日の夜は星空観察会。天体に詳しい先生を招いて手が届きそうな星を観察します。



2日目。班単位で終日山伏山登山・カヤック・魚釣り。釣った魚が夕食のご馳走になります。このキャンプ中唯一の動物性たんぱく質をゲットです。

夜はキャンプファイヤー。各班からの出し物で盛り上がります…というの、優勝チームには、すいかまるごととか、たわわなバナナとか、甘い果物が賞品になります。甘いものに飢えている彼らにとってはすごいご馳走なのです。各班でお互いの性格を理解しつつ、協力しあわなければ何事もうまくいかないことを体感する2日目です。

3日目。この日は朝から小松原湿原に移動してハイキング登山。自然観察指導員さんからの説明を聞きながら登ります。終了後は山伏山に戻り夕食の準備。疲れた体には相当こたえます。いつもは家の人が作ってくれている食事を自分が動かなければ食することができない…このあたりで家の人のありがたさを十分すぎるほど感じます。さすがに3日目の夜になると、テントの中でいつまでも騒いでいる体力も残ってはず、消灯時間午後10時前には静かになります。

最終日は、朝からテントの片付けとキャンプ場の清掃。昼食は朝食時におにぎりを作っておいて…。ここからが最後のふんばりどころです。



山伏山キャンプ場から津南駅までの約10キロの山道をひたすら歩きます。最後のサバイバルウォークです。午後4時ころ家族の待つ終点に着き解散式。4日間の思い出を胸にそれぞれの帰路に着きます。

周りの人への気づかい、協力、いたわり、家族のありがたさ、食べ物大切さ、そして自分の行動に責任を持つことをキャンプ中に体得しながら、友情も培うキャンプです。

### ―最後に―

今年も8月1日から4日まで3泊4日で開催される11回目のサバイバルキャンプ。毎年30人ほどの彼らが、今年も生きる力を体得します。

高校生ボラの皆さんにとっても、広い視野で担当の子どもたちを指導することは初めてのことであり、貴重な、そしてかなり過酷な体験のようです。小学生のときに3年間通して参加し、高校生ボラになり、大学生になっても参加する～生きる力の必要性と達成感を一度体験すると忘れられなくなるようです。

この「サバイバルキャンプ」に興味を持ってくださった方、今年の夏はぜひともいっしょにサバイバルしましょう。大歓迎です!!

